



【考察①】

「各教科の学習は楽しい」と解答している児童は、今年度 77%と、過去の結果からみても、年々上昇傾向にある。一方、「授業で考えたことや思ったことをノートに書いたり、進んで話したりしている」では 52%と芳しく無い。つまり、板書を書き写すことはできるが、聞く→考える(予想する)→記録する、という基本的なプロセスが身につけていないと推察することができる。今後は問題解決能力の育成、定着を目指し、さらに指導方法の改善をしていきたい。

【考察②】

「友達がこまっている時にやさしくしたり、助けたりしている。」では、83%、「学校では友達から教えてもらったり、助けてもらったりしている。」では 90%の児童が肯定的に解答している。「武山小学校の4つの授業規律を守っている。」や「先生は人を思いやることや社会のルールを守ることの大切さを教えてくれる。」でも約 90%が肯定的に解答している。このことから、学級での児童の人間関係が良好であり、学習に集中できる環境づくりができていると考える。

【考察③】

児童のアンケート結果から「先生はできるようになったことやがんばったことを認めてくれる。」では、一昨年は66%、昨年は77%、本年度は81%と、満足感を持って学習に望んでいる児童が増加していることが読み取れる。保護者アンケートにおいても「教員は子どもの学習の成果や課題が伝わるような取り組みをしている。」では 86%の肯定的解答をしている。また、保護者アンケート「教員は子どもがわかりやすいように授業を工夫している。」に90%の肯定的な解答から学校に対する信頼感が感じ取れる。これは担任と児童、保護者がお互いに連絡を取り合い、個別指導や少人数指導など効果的な学習形態を工夫したり、一人ひとりに適応した指導が効果的に反映した結果だと考えられる。今後も教師一人ひとりが指導力を高め、児童への適切な手立てを図るとともに、教育支援チームが迅速に対応することのできる組織運営を続けていきたい。

